

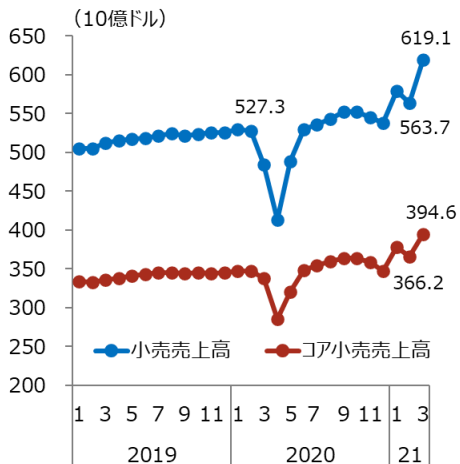
米国

小売売上高 (2021年3月)

現金給付により個人消費はさらに拡大、外出関連でも回復進む

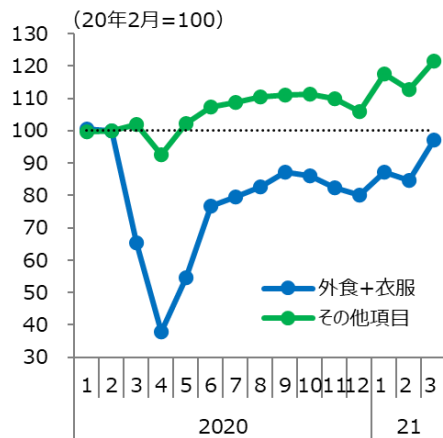
政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

1 小売売上高 (金額)



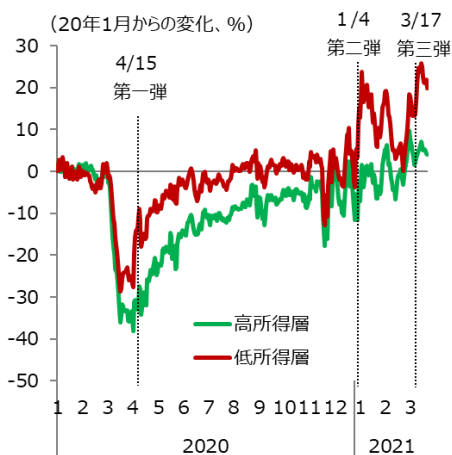
出所：米国商務省

2 小売売上高 (外出関連項目)

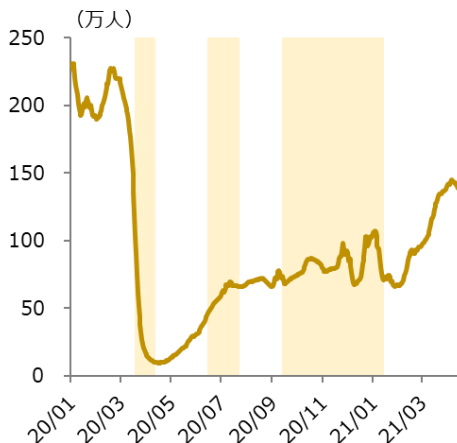


注：赤色は感染拡大期間を示す 出所：米国商務省

3 所得別カード支出と現金給付

注：現金給付の日付は給付開始日を指す。クレジット・デビットカードの支出の日次データを集計。
出所：Opportunity Insight「Economic Tracker」

4 航空機の搭乗者数

注：後方7日間移動平均。直近は4/17。運輸保安庁の空港検査場を通過した人数。黄色背景は感染拡大時期を示す。
出所：米国運輸保安庁

評価ポイント

今回の結果

- 2021年3月の米國小売売上高 (4/15公表) は、前月比+9.8%と大きく増加し、2カ月ぶりに増加に転じた。また、基調を示すコア小売売上高 (自動車やガソリン、建材を除く売上高) は同+7.8%だった (図表1)。
- 内訳をみると、主要13項目の全てで前月から売上が増加した。外出関連 (外食+衣服) においても売上が大きく増加し、コロナ前 (20年2月) の水準近くまで回復した状態となっている (図表2)。
- 所得制限付きの現金給付が実施されたことから、特に低所得者において消費が大きく増加している (図表3)。

基調判断と今後の流れ

- ワクチン普及進展に伴う活動抑制の緩和に加え、3月に成立した1.9兆ドルの「米国救済計画」による一人最大1,400ドルの現金給付が実施されたことで、米国の個人消費はさらに拡大を続けている。
- 個人消費の先行きは、現金給付の経済効果剥落により、年央にかけて一時的に減少するものの、底堅く推移し、米国経済の回復を牽引すると予測する。消費者信頼感3月に109.7と前月 (90.4) から大きく上昇し、20年3月以来の高水準になるなど、消費者のマインドも改善しており、ワクチン接種がさらに進むにつれ、蓄積した家計貯蓄が消費に回ると見込まれる。
- 特に旅行や娯楽などの外出関連サービス業においてはペントアップ需要による急回復が期待できる。例えば今年に入ってから航空機の搭乗者数は大きく増加しており (図表4)、旅行業の回復を示唆している。
- 懸念されている物価は、3月のCPIが前年比+2.6%、コアCPIが同+1.6%と、上昇を続けているものの、市場予想からの大きな乖離はなかった。4月以降も2%を超える大幅な物価上昇が続くと見込むが、大きく落ち込んだ前年からの反動によるものか、消費の過熱等による構造的なものかを注視する必要がある。